第35回 群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会

日時 2024年 **3月9日(土)** 12:30～16:45

テーマ ストーマと災害への備え

会場 **群馬県看護協会** 群馬県前橋市上泉町1858-7
研究会：1階 大研修室／幹事会：2階 第3研修室

当番幹事 利根中央病院　病院長 **関原　正夫**
HP：https://idsc-gunma.jp/congress/annual/stoma35th/

特別講演 群馬県総務部危機管理課　防災対策主監 **稲田　裕一 先生**
演題 **「群馬県の災害」**

特別報告 利根中央病院 **関原　正夫**
報告 **「市町村における装具備蓄の現況」**

参加料 **2,000円（学生無料）**

後援：群馬県医師会　群馬県看護協会　　日本医師会生涯教育講座認定　カリキュラムコード：14【災害医療】（0.5単位）

開催概要

第 35 回　群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会

集会名	第 35 回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会
テーマ	ストーマと災害への備え
日時	2024 /3/9（土） 12:30～16:45
会場	公益社団法人　群馬県看護協会 群馬県前橋市上泉町 1858-7 研究会:1 階　大研修室　／　幹事会:2 階　第 3 研修室
当番世話人	利根中央病院　病院長 関原　正夫

群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会

会長	関原　正夫 （利根中央病院　外科）
事務局	〒378-0012 群馬県沼田市沼須町 910-1 利根中央病院内 TEL ： 0278-22-4321　FAX ： 0278-22-4393

当番幹事ご挨拶

第 35 回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会の当番幹事を拝命いたしました、利根中央病院の関原正夫でございます。研究会開催に伴い、ご挨拶させていただきます。

新型コロナウィルス感染症の影響がいまだ残る中ではありますが、ようやく種々の社会活動や学会活動も元に戻りつつある状況となりました。2023 年 2 月には第 34 回本研究会が久しぶりに集合形式で盛会に開催することができ、皆様方と顔を合わせて議論することが本研究会の意義を深めることを実感いたしました。

さて、気候変動伴う風水害や大地震の危険について耳にする機会が増えている昨今です。ひとたび災害が発生すれば、被災地の方々は長期間の避難所生活を強いられることになります。医療を始め種々の機関において災害への備えが求められているところですが、急性期の対応だけでなく避難所生活といった慢性期での対応も必要で、本研究会の対象であるストーマ保有者への対応にも目を向ける必要があります。災害弱者であるストーマ保有者に対しては、避難所生活での支援が遅れがちになることが指摘されています。現在、全国的にストーマ保有者への対応が進められている中、群馬県ではその対応が遅れているのが現状です。

そこで今回、「ストーマと災害への備え」をテーマとして特別講演と特別報告を企画致しました。本研究会に参画する皆様にとって、今後の災害対応の進展の契機になればと思っています。

またテーマに関わらず、皆様方の普段の取り組みや経験など幅広くご発表頂き、より深い議論ができましたら幸いです。本研究会が県内の創傷・ストーマ・排泄ケアに携わる全ての医師・看護師・医療従事者の交流発展の一助となりますことを祈念しております。

多くの方々のご参加を心よりお待ち申し上げます。

第35回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会　当番幹事

関原　正夫

（利根中央病院　外科）

演者・参加者へのお願い

―演者のみなさまへ―

1．口演発表

1）一般演題の発表時間は口演 6 分討論 3 分です。時間厳守をお願いします。

2）演者はあらかじめ次演者席に着いてお待ちください。

3）質疑応答は、座長の指示に従ってください。

2．プレゼンテーションの準備

1）発表は PowerPoint による、PC 発表です。

発表用パソコンは、以下のものを用意します。

OS：Windows11

ソフト：PowerPoint2021

ノートパソコンをお持ちいただく場合には、別途変換コネクターを必ずご用意ください。

2）発表データの事前提出はありません。当日 USB メモリに保存してご持参ください。

3）研究会当日の PC 受付は 11：30～12：15 までです。PC 受付にて受付を済ませ内容の確認を行ってください。

4）発表時のスライドの操作はご自身で行ってください。

5）発表データは、受付用のパソコンに一旦保存させていただきますが、終了後に当会にて責任を持って消去いたします。

―参加者のみなさまへ―

1．受付

1）受付は 11：30 から開始します。

2）会費2000円を会場受付にてお支払いください。学生、一般の方は無料です。

2．協賛企業の展示について

1）2階研修室2で、各社がストーマ装具や排泄・スキンケア用品の展示を行います。

3．討論について

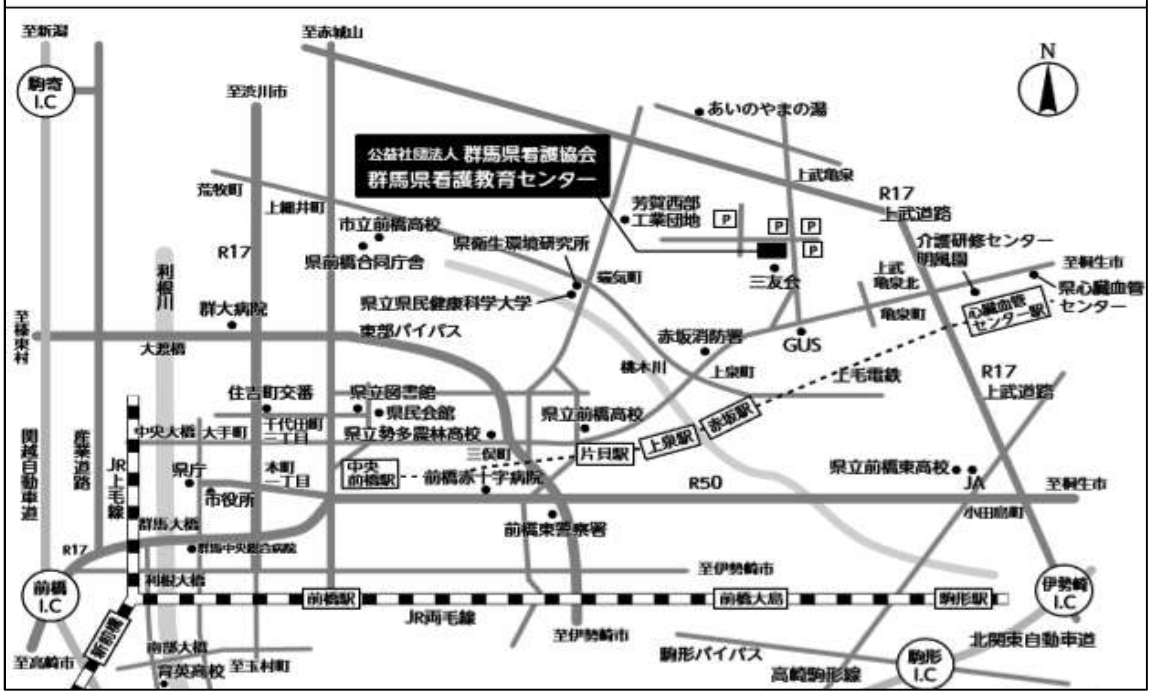
1）質問などの発言は座長の指示に従い、マイクを使用して、施設名と氏名を述べて簡潔に行ってください。

―幹事のみなさまへ―

当日 12:00 から2階研修室3にて幹事会を行いますのでご出席ください。

･･･MEMO･･･

会場までのアクセス



公益社団法人　群馬県看護協会

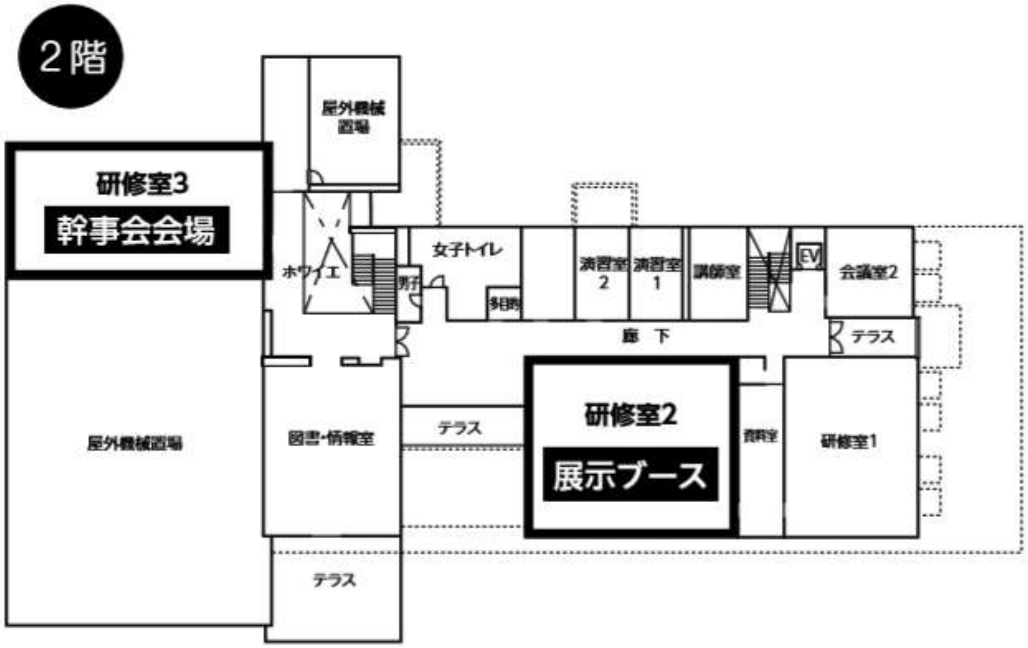
住　所：371-0007　群馬県前橋市上泉町1858-7

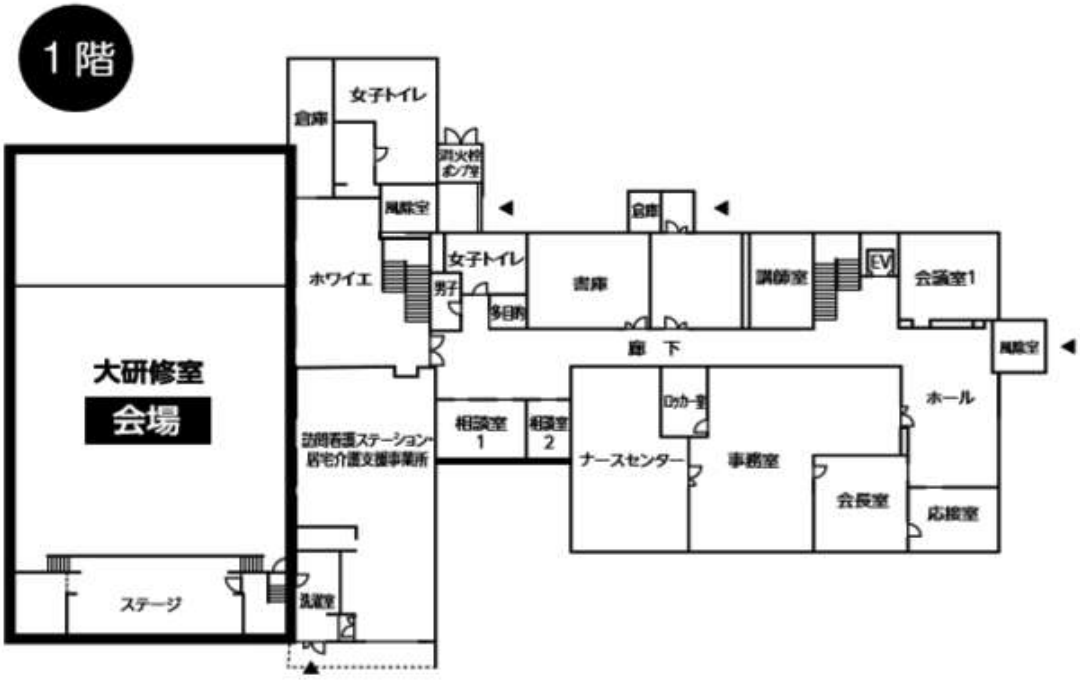
TEL：027－269－5565

- JR新前橋駅からタクシーで約30分
- JR前橋駅からタクシーで約20分
- 上毛電鉄赤坂駅または心臓血管センター駅から徒歩20分

群馬県看護教育センター

会場案内図


2階
屋外機械置場
研修室3
幹事会会場
ホワイエ
男子
女子トイレ
多目的
演習室2
演習室1
講師室
EV
会議室2
廊下
テラス
屋外機械置場
図書・情報室
テラス
研修室2
展示ブース
資料室
研修室1
テラス


1階
倉庫
女子トイレ
消火栓ポンプ室
掃除室
倉庫
ホワイエ
男子
女子トイレ
多目的
書庫
講師室
EV
会議室1
廊下
掃除室
大研修室
会場
訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所
相談室1
相談室2
ロッカー室
ナースセンター
事務室
ホール
会長室
応接室
ステージ
洗濯室

プログラム

12:30～12:35　開会の辞

第 35 回当番幹事　関原　正夫（利根中央病院　外科）

12:35～12:45　総会

12:45～13:25 一般演題 A 【患者支援】

座長 ： 谷　賢実（JCHO 群馬中央病院　外科）
松本　佳代（公立藤岡総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師）

A―1　病院から訪問看護へのストーマ管理のタスクシフト
～独居男性のストーマ管理自立に向けた支援～
とね訪問看護ステーション　星野　日和

A―2　独自のストーマケアを行う患者へのセルフケア指導難渋事例
JCHO 群馬中央病院　矢島　寿恵

A―3　SPA ツールを用いた装具選択の重要性
群馬県立がんセンター　正田　夏奈瑚

A―4　化学療法患者に発生したストーマ周囲潰瘍治癒に至ったケアの一症例
前橋赤十字病院　木村　公子

13:25～14:05 一般演題 B 【研究報告・業務改善】

座長 ： 小川　博臣（群馬大学　消化器外科）
瀬戸川　貴子（渋川医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師）

B-1　低年齢から始めた経肛門的洗腸療法の有用性
～先天性外科疾患を基礎疾患とする患者を対象に～
群馬県立小児医療センター　髙橋　裕也

B-2　指導内容の統一を目的としたストーマ指導用パンフレット改訂の取り組み
群馬大学医学部附属病院　齊藤　絢奈

B-3　当病棟のストーマケアに対する現状と質向上に向けた取り組み
利根中央病院　片野　侑奈

B-4　ストーマ看護実践能力尺度を用いた看護実践能力の把握
～看護師教育ツールの有用性～
高崎総合医療センター　宇賀　由紀恵

14:05～14:25　　≪ 休憩 ≫

※2階研修室2で企業展示を行っていますので、足をお運びください。

14:25～14:55 一般演題 C【チーム活動・災害】

座長 ： 新井 誠二（群馬大学 泌尿器科）
小笠原 雅巳（善衆会病院 皮膚・排泄ケア認定看護師）

C-1　内科病棟、内科・外科混合病棟の排尿自立支援の現状と課題
群馬県立がんセンター　鶴木 ゆかり

C-2　オストメイトの災害に対する意識調査
～当院とつながりのあるオストメイトの現状～
利根中央病院　松本 厚子

C-3　ストーマ保有者の災害への備えの現状と課題
原町赤十字病院　島村 和子

14:55～15:15　　≪ 休憩 ≫

※2階研修室2で企業展示を行っていますので、足をお運びください。

15:15～16:15　特別講演

座長 ： 関原 正夫（利根中央病院 外科）

演題：群馬県の災害

講師：群馬県総務部危機管理課　防災対策主監 稲田 裕一 先生

16:15～16:35　特別報告

報告：市町村における装具備品備蓄の現況

利根中央病院 外科　関原 正夫

16:35～　　閉会の辞

第 36 回当番幹事　田村 芳美 （渋川医療センター 泌尿器科）

特別講演

特別講演（15:15～16:15）

演題：群馬県の災害
講師：稲田　裕一　　群馬県総務部危機管理課　防災対策主監

＜主旨＞
「群馬は安心・安全？」ー近年激甚化する国内の災害状況及び群馬県の災害状況を踏まえて「群馬県と個人の備え」について紹介するとともに群馬県の安心・安全神話を払拭する。

＜略歴＞
元陸上自衛官
令和5年3月　陸上自衛隊早期退職
同年4月～　群馬県庁勤務　総務部危機管理課

※主な災害派遣
阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、令和元年台風19号等多数
ネパール国際緊急援助隊

＜著書＞
自衛官が語る災害派遣の記録（共著）

一般演題 A1

病院から訪問看護へのストーマ管理のタスクシフト
～独居男性のストーマ管理自立に向けた支援～

星野日和[1)]、金子いづみ[1)]、戸丸悟志[1)]、青山政江[2)]

とね訪問看護ステーション[1)]、利根中央診療所[2)]

現在病院では、在院日数の短縮化が進みストーマ管理指導も在宅へのタスクシフトが進んできた。2020 年国勢調査によると単身世帯、未婚率の割合が増加傾向にある。ストーマ管理が複雑化する中、介助者のいない独居男性へ訪問看護が介入し指導を行い自立できた症例について振り返り検討したため報告する。

【症例】

①68 歳　事務職　S 状結腸がん

パウチを中心から折り貼付。本人が貼りやすい体位を一緒に検討。パウチ交換手技は自立していたが不安が強く、本人・看護師が交互に主体で交換する日を作り自信を持たせるよう介入した。仕事復帰できた。

②70 歳　土建業　小腸がん

ガーゼにパウダーを出し近接部に押し付ける方法で自立。パウチはカットサービスへ移行。金銭的理由から仕事復帰希望あり。

③55 歳　会社員　直腸がん

用手形成皮膚保護剤からペーストを面板へ塗布し貼付する方法にて看護師見守りで自立。化学療法しながら仕事復帰希望あり。

【結果・考察】

年齢や理解力、手技の自立度に応じて在宅で利用者のペースで指導することができた。また、利用者・チームで課題や工夫の共有ができていたためスムーズな支援ができた。

症例の共通点は独居男性で仕事復帰を目指していた。介入当初は看護師任せだったが仕事復帰を想定した指導をすること、その思いに寄り添うことでスムーズに自立ができ QOL 向上につながった。

一般演題 A2

独自のストーマケアを行う患者へのセルフケア指導難渋事例

矢島寿恵[1)]、佐藤美代子[1)]、割田由貴[2)]、金古理英[2)]

JCHO 群馬中央病院　外来[1)]、JCHO 群馬中央病院　外科病棟[2)]

【はじめに】

ストーマ関連合併症の中でストーマ周囲皮膚障害は最も多い頻度で発生する。痛みやかゆみが伴い身体的苦痛が生じ、また装具交換頻度の増加や医療機関受診頻度の増加によって患者の精神的苦痛、延いては経済的負担にもつながる。今回術後 7 年経過しているがセルフケア指導に難渋している患者を経験し、検討を重ねてきたため報告する。

【症例】

60 代女性、2016 年直腸癌に対して低位前方切除術を施行。化学療法中に直腸膣瘻発症、膣瘻改善ないため横行結腸人工肛門増設術、経膣的直腸膣瘻閉鎖術施行となった。術後 7 年経過しており、その間の体重増加に伴い腹壁がストーマに覆いかぶさり、深いしわが生じていた。また自身でストーマを直視することができなくなっている。

【結果】

原因追求のため、患者を多角的にアセスメントをした上で、装具選択の見直しや模型を使用した患者指導を行った。しかし毎回装具を装着せずガーゼ保護をした状態で来院しており、皮膚状態は改善していない。

【考察及び結論】

皮膚状態の治癒を図るためには原因を追求し改善することが必要不可欠である。しかし、看護師がアセスメントしたいと思う情報を患者から十分に引き出せない現状がある。

限られた時間の中で患者の個性にあった指導を行なうのは難しい。特に難渋事例患者では情報を集め、患者への理解を深めた上で指導を行うことが必要である。

一般演題 A3

SPA ツールを用いた装具選択の重要性

正田夏奈瑚、伊久間香織、茂木翔子、阿部瑛理香

群馬県立がんセンター　看護部

【目的】

横行結腸ストーマ造設術直後にストーマ粘膜に血腫を生じ、ストーマ周囲の腹壁に窪みのある患者に対し、ストーマフィジカルアセスメントツール（以下 SPA ツール）を用いて装具選択を行った。この事例を振り返ることで、SPA ツールに基づいて装具選択をすることの重要性を確認すると共に、今後の実践で SPA ツールを活用するための課題を検討する。

【方法】

SPA ツールの評価を元にストーマ装具を選択した。

選択したストーマ装具の適正を以下の項目で評価した。①ABCD-stoma②排泄物の漏れの有無③臭気の有無④ストーマケアの負担感⑤ストーマ装具の装着感⑥自己負担金の額⑦活動制限の有無

【結果】

SPA ツールに基づき選択した装具は、7 つの評価項目全てにおいて良好な結果が得られた。ストーマ管理は良好であり SPA ツールの有効性を確認した。

SPA ツールの評価では、複数の選択肢が発生する場合があり、優先順位を決定する必要があった。また、推奨される基準の中からストーマ装具を選択する知識が必要になった。

【考察及び結語】

SPA ツールを用いて評価を行うとストーマ装具の基準が示され、根拠に基づいて装具選択が行える。これによって選択した装具は患者への適応性が高く、患者の生活の質を担保すると考える。

SPA ツールを活用し装具選択するには、腹壁の状態を評価する知識や、複数あるストーマ装具の特性を理解した上で、適応する装具を選択する知識が必要となる。

一般演題 A4

化学療法患者に発生したストーマ周囲潰瘍治癒に至ったケアの一症例

木村公子[1)]、吉田知典[2)]、宮崎達也[2)]

前橋赤十字病院　看護部[1)]、前橋赤十字病院　外科[2)]

【はじめに】

化学療法による皮膚障害を認める事も多くあり、今回ざ瘡様皮疹が起因と考えるストーマ周囲潰瘍形成をした患者のケアを経験し、治癒することができた。その経過について報告する。

【患者紹介】

A 氏、50歳代、男性

20XX 年 S 状結腸癌膀胱浸潤のため回腸導管造設。術後に化学療法実施。

その後、転移巣部分切除、化学療法、放射線療法などを継続していた。

ストーマ周囲潰瘍ケアの経過

20XX＋6 年よりIRI＋パニツブマブ開始、ざ瘡様皮疹が著明で、ステロイド対応をしていた。

11 月、ストーマ 4 時方向に潰瘍形成したと連絡があり、上 : 0.7 × 0.4、下 : 1 × 0.6cm の 2 つ形成されていた。ストーマ周囲にもざ瘡様皮疹を認めていたため、潰瘍の原因をパニツムマブによる薬剤性の可能性とし、ステロイドによるケアを提案し外用療法開始する。

20XX＋7 年 1 月、潰瘍サイズは、上 ; 02 × 0.1cm、下 ; 1.4 × 0.4cm 潰瘍サイズの縮小や潰瘍が浅くなっているため、創部の改善傾向にあると考えたためステロイドを継続。

3 月、潰瘍サイズ、上 ; 0.9 × 0.3cm、下 ; 1.8 × 0.6cm、創部の状態からバイオフィルム形成の疑いあり。ステロイド併用がよいか相談必要と判断し、皮膚科医師へコンサルト。皮膚科医師より、潰瘍としての治療へシフトした方がよいとの返答あり、銀含有創傷被覆材で処置を行う方向となった。

3 月、潰瘍サイズ、上側にあった潰瘍は治癒、下 : 1.7 × 0.7cm

6 月、治癒し、その後潰瘍部の再発なく経過している。

【考察】

ざ瘡様皮疹が起因した潰瘍に対し、初期はステロイド対応としたが、治癒が遅延してきた段階で創部の臨界的定着状態と判断、創傷衛生視点のケアへ変更し、患者の協力の下、根気よく実施することで化学療法継続中でも治癒する事ができた。

一般演題 B1

低年齢から始めた経肛門的洗腸療法の有用性
～先天性外科疾患を基礎疾患とする患者を対象に～

髙橋裕也、金子友香、大谷ゆう子

群馬県立小児医療センター　看護部

【目的】

A 病院は、ペリスティーン®を用いた経肛門的洗腸療法(Transanalirrigation：以下TAI)を県内で唯一導入している。また、その対象者を、先天性外科疾患を基礎疾患とした排便障害を有する小児患者としている。先行研究を概観し結果、このような導入が稀であることを確認した。そこで、本研究は、先天性外科疾患を基礎疾患とした排便障害を有する小児患者を対象に、TAI を導入した有用性を明らかにする。

【方法】

研究対象者は、TAI を導入した 6 名であり、発達段階別に質問表現を工夫した。調査用紙を患者または家族に配付した。調査用紙とは、Visual Analogue Scale(以下 VAS)による排便に関する満足度、The Neurogenic Bowel Dysfunction score(以下 NBD)、独自に作成した質問紙である。また、診療録等から TAI 導入前後の排便管理に関する記録を抽出した。得られたデータの記述統計量と自由記述の代表的な記述の抜粋により分析した。

【結果】

VAS による排便に関する満足度とNBD は、導入前後で満足・改善をきたした者もいれば、そうでない者もいた。その理由は、TAI 導入後も内服調整が必要、便失禁の増加等であった。また、TAI の導入自体への満足度は高く、セルフケア促進や摘便等の処置が不要になった等の理由によるものであった。一方、外出先や学校生活等を送る上での不安を完全には解消できていなかった。

【考察】

TAI 導入により、セルフケアの促進に繋がり、満足度も得やすくなるものの、排便習慣の確立には時間を要すため、安定するまで、継続看護が必要である。

一般演題 B2

指導内容の統一を目的としたストーマ指導用パンフレット改訂の取り組み

齊藤絢奈、兼松健弘、樋口ありさ、山崎綾子

群馬大学医学部附属病院　看護部

【初めに】

当病棟では人工肛門造設患者への指導内容が記載されたストーマケア指導用パンフレット（以下、パンフレットとする）が導入されている。しかし、実際は十分に活用されず看護師によって指導内容が異なり、統一出来ていなかった。そこで、活用しやすいように記載内容を修正し、パンフレットの改訂を行った。

【目的】

統一した指導ができるようにパンフレットを改訂する

【方法】

従来のパンフレットの改訂に携わったメンバーで見直しを行った。期間を手術前日から退院決定までとし、装具交換の回数毎で患者目標を追加し、達成できるように指導内容と業務内容を変更した。改訂に伴い、当院泌尿器科病棟の尿路ストーマ造設患者への指導内容が記載されたストマ経過表を参考にした。また、皮膚・排泄ケア認定看護師に助言を貰いながら病棟独自のパンフレットを作成した。そして病棟スタッフにパンフレットの記載内容や使用方法を説明し運用を開始した。

【結果】

ストマ経過表や皮膚・排泄ケア認定看護師の助言を参考に改訂することが出来た。病棟スタッフがパンフレットの運営方法を周知して運用を開始することが出来た。

【考察】

運用開始直後のため評価することが出来ていないが、運用を続けていき改訂内容が適切であったのか評価する必要がある。運用と評価を重ねることで、看護師の統一した指導に繋がると考える。

一般演題 B3

当病棟のストーマケアに対する現状と質向上に向けた取り組み

片野侑奈、竹内吟江、茂木めぐみ、宮地文子、中山久美

利根中央病院　3A・HCU 病棟

【目的】

当病棟は HCU と内科を中心とした一般病棟が併設する急性期病棟である。HCU では予定のストーマ増設の他、消化管穿孔等で緊急ストーマ増設となる患者も受け入れている。当病棟はスタッフの年齢層が若いこと、看護方式や滞在日数が少ないことにより、ストーマケアの経験が少ない看護師が多い。HCU 滞在中のストーマ管理が不十分であったことにより、入院期間が延長してしまうケースが続いた。そのため、ストーマケアの質向上を目的とした要因分析を行い、改善策を講じた。

【方法】

病棟全スタッフを対象にアンケートを実施。項目は「経験年数・外科病棟経験年数」「交換手技で難しいこと」など。

【結果】

パウチ交換はほぼ全員経験があったが、経験件数についてはかなりの差があることが分かった。難しい点については、ストーマ交換手技やアクセサリーの使用、パウチ選択についてなど、基本的な部分が多く挙げられた。

【考察及び結論】

ストーマトラブルに繋がる原因として、指導や学習の機会が得られなかったことが原因だと考える。外科病棟経験者の人数も少なく、知識・観察・技術不足により皮膚トラブルに繋がったと考える。基本的な部分の知識向上のため皮膚・排泄ケア認定看護師によるストーマ交換手技の学習会を行った。また、パウチ交換の際には、ストーマ経験が豊富な看護師と受け持ち看護師が一緒に行うことをルール化し、指導ができる体制を整えた。

一般演題 B4

ストーマ看護実践能力尺度を用いた看護実践能力の把握
～看護師教育ツールの有用性～

宇賀由紀恵、石原由弥、窪田美穂、今井心、五十嵐和弘、吉澤智子

独立行政法人国立病院機構　高崎総合医療センター　看護部

【Ⅰ. はじめに】

病棟の教育体制がストーマケア看護実践能力の向上に役立っているのか尺度を用いて把握したいと考えた。

【Ⅱ. 目的】

患者に標準化したストーマケアを提供出来ているかをストーマ看護実践能力尺度により明らかにし、さらなるストーマケア看護の知識・技術の向上に繋げることを目的とする。

【Ⅲ. 方法】

1. 期間:令和 4 年 12 月～令和 5 年 2 月
2. 対象:令和 4 年 12 月時点で A 病棟に勤務している看護師 25 名
3. 方法

A 病棟看護師を対象としてストーマ看護実践能力尺度を用いた質問紙調査を行った。この調査は教育前後の2回実施した。回答は 4 段階評定とし、領域毎に点数化した。

教育内容は学習者のニーズを取り入れ、患者指導用パンフレットと DVD の視聴、ストーマケア勉強会とストーマケアクリニカルパスの使用方法の指導である。

【Ⅳ. 結果】

教育前後で「実践」「アセスメント」「ストーマ技術」「計画立案」「人権擁護」「評価」の 6 領域全てで有意差を認めた。

【Ⅴ. 考察及び結語】

ストーマ看護実践能力尺度の結果より教育体制がストーマ看護実践能力の向上に有用であったと検証された。教育したい内容を指導するだけでなく、学習者が知らない、知りたいと思う内容を指導することで興味を持って教育内容に取り組むことができ、学習成考えられる。またストーマケアの知識・技術の向上のためは継続的な教育と定期的な教育内容の見直しが必要である。

一般演題 C1

内科病棟、内科・外科混合病棟の排尿自立支援の現状と課題

鶴木ゆかり、伊久間香織、助名真里花、高橋沙季、久保田哲、 山中知美、
風間優、上出美嘉

群馬県立がんセンター　排尿ケアチーム

【目的】

当センターの令和 4 年度の排尿自立支援加算（以下加算とする）の件数は 317 件、内科領域の加算件数は 24 件だった。内科領域の加算件数が増加しない現状がある。そこで、内科を有する病棟の尿道留置カテーテルの使用状況を調査・分析し、排尿ケアチームの活動の課題を検討する。

【方法】

当センターの内科を有する病棟で、令和 5 年 4～5 月に尿道留置カテーテルを使用した 51 名に対し、排尿自立支援の実施状況を調査した。調査内容は、加算対象者数、加算実施数、排尿自立指導計画書・排尿日誌・看護記録の内容とした。

【結果】

尿道留置カテーテルを使用した 51 名の内、加算対象数は 10 件、実際に加算した件数は 3 件だった。加算を取得できていない理由として、排尿自立計画書や排尿日誌、看護記録の不備があった。下部尿路機能障害の種類に応じた支援が実施できていない現状がわかった。

【考察及び結語】

内科病棟では、排尿自立支援を行っていても、スタッフが加算を取得するために必要な知識が不足しているため、加算件数が増加しない可能性がある。
また、下部尿路機能障害の状態に応じた支援について理解不足があるため、必要な支援が不足している可能性がある。
排尿ケアチームの活動の課題として、スタッフが排尿自立支援加算と下部尿路機能障害に関する知識を得られるようにシステムを作る必要があると考える。

一般演題 C2

オストメイトの災害に対する意識調査
～当院とつながりのあるオストメイトの現状～

松本厚子

利根中央病院　看護部

【はじめに】

近年、大規模災害に見舞われることが多く災害の備えに対する意識は高まってきている。災害が起こると生活に必要なライフラインの障害が起る可能性があり、国からも災害の備えは個人でも行うように発信されている。特にオストメイトについては、災害直後からストーマ管理の問題に直面することから、オストメイトの災害に対する意識や備えについて実態を知るためにアンケート調査を実施し現状を知ることができたので報告する。

【目的】　災害に対する意識と備えについて実態を知る

【対象と方法】

当院とつながりのあるオストメイトを対象にアンケート用紙による直接回答記入

【結果】

アンケートは 54 人に実施し、男女比は男性 30 人女性 24 人であった。年齢は平均年齢 74 歳。災害に対する意識の質問では、災害に対する準備が必要なことを知っていると回答が 69%あったが、準備する物品や内容を知らないと回答は 43%であった。ストーマ装具の準備では、準備しているが 50%で装具の準備日数は 30 日が最も多かった。ストーマ装具の持ち出しでは、63%がすぐに持ち出しができると回答。ストーマの管理では、本人管理が 72%でストーマ装具のメーカー・商品名・サイズをすべて知っている人は 50%であった。外出時におけるストーマ装具の携帯は、「毎回」35%、「携帯していない」は 30%であった。

【考察】

今回、災害に対する意識調査を初めて実施した。災害に対する意識や備えに対して実態を知ることができた。災害に対する意識は半数以上あったが、備えの詳細を理解していない人が多くまた各個人のストーマ用品の詳細を知らない人が半数いたことがわった。具体的な対策や備えについて繰り返し説明し理解を深めていくことが重要である。

一般演題 C3

ストーマ保有者の災害への備えの現状と課題

島村和子、加藤裕美、佐藤三由紀、山野恵子、関美玖、山田優子、高橋健太、
山口文子、松井みちる、田中成岳、内田信之

原町赤十字病院

【はじめに】

近年、記録的な災害が日本各地で起こっており、いつ未曾有の災害が起こっても不思議ではないと言われている。しかし災害が発生した場合、ストーマ用品の支給は時間がかかることが予測される。また災害時の備えをしているストーマ保有者の方は5割程度と研究結果も出ているが、ストーマ保有者が災害の備えにおいて、どのような情報を持っていてどのような準備をしているのかは十分明らかにされていない。そこでこの度「ストーマ保有者の災害の備え」について調査し、現状を明らかにした。また実際の被災地での環境を知り、災害時にストーマ保有者に起こり得る困難について検討した。

【研究目的】

ストーマ保有者の災害の備えについて調査し、今後の看護支援に役立てる。

【研究方法】

1）対象

①A 病院のストーマ外来通院中のストーマ保有者と家族

②実際に被災地で救護活動を実施した A 病院の看護師

2）データ収集方法

アンケート調査

3）分析方法

選択回答式質問への回答については、度数・百分率を算出する。自由回答式質問への回答については、記述の意味内容の類似性に基づき分類し、記述内容を表すカテゴリ名を付ける。

4）研究対象者における倫理的配慮

原町赤十字病院倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

ストーマ保有者の災害の備えの現状について明らかにすることで、災害時のストーマ保有者に起こり得る困難について検討した。

･･･MEMO･･･

･･･MEMO･･･

群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 会則

第一章 名称および事務局

第 1 条 本会は群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会と称する。

第 2 条 本会は事務局を設置する。

事務局は利根中央病院内におく。

第二章 目的および事業

第 3 条 本会はストーマならびに排泄障害に対するリハビリテーションの向上と普及を通じて、オストメイトならび排泄障害者の Quality of Life の改善を図ることを目的として次の事業を行う。

1. 学術集会の開催
2. その他本会の目的達成に必要と思われる事項

第三章 会員

第 4 条 本会の趣旨に賛同する以下の個人あるいは団体をもって構成する。

1. 個人会員 本会の目的に賛同する医師、ET（Enterostomal Therapist）、WOCN（皮膚・排泄ケア認定看護師）、看護師、保健師、福祉関係者などの医療従事者。
2. 賛助会員（団体） 本会の目的に賛同し、所定の特別の会費を納め、幹事会で認めた団体。
3. 賛助会員（個人） 本会の目的に賛同し、幹事会で認めた個人。

第四章 役員その他

第 5 条 本会に次の役員をおく。なお、名誉顧問、顧問および名誉幹事をおくことができる。

1. 役員 1）会長 1 名
   2）幹事 若干名
   3）監事 2 名
   4）当番幹事 若干名
2. 名誉顧問 ： 若干名
3. 顧 問 ： 若干名
4. 名誉幹事 ： 若干名

第 6 条 役員は幹事会において幹事より選出し、総会の承認を得て決定される。

第 7 条 幹事は幹事会において推薦し、総会の承認を得て決定される。

第 8 条 名誉顧問、顧問および名誉幹事は幹事会の推薦により会長が委嘱する。

第 9 条 役員の任期は 2 年とし再任を妨げない。ただし、当番幹事の任期は 1 年とする。名誉顧問、顧問および名誉幹事の任期は規定しない。

第 10 条　役員の責務は以下の通りとする。

1. 会長は本会を代表し会務を統括する。
2. 当番幹事が中心となり、学術集会の開催および運営を行う。
3. 幹事は当番幹事を補佐し、会務を分担する。
4. 監事は会計および業務の執行を監査する。
5. 事務局は本会運営上の諸事務を担当する。
6. 名誉顧問、顧問および名誉幹事は会長の諮問に答え、会務に関して意見を述べることができる。
7. 幹事会の成立には委任状を含めて幹事の過半数の出席を要し、議事の決定は出席者の過半数をもって行う。

第五章　会合

第 11 条　本会の会合を幹事会、総会および学術集会、等とする。

第 12 条　幹事会、総会および学術集会は必要に応じて開催する。尚、学術集会の際には総会を開催することとする。

第 13 条　学術集会は年 1 回以上開催する。（尚、研究会の開催回数は積算とする。）

第六章　会計

第 14 条　本会の運営経費は、学術集会の参加費、寄付金および補助金その他をもってこれにあてる。

第 15 条　本会の会計年度は毎年 4 月 1 日より、翌年 3 月 31 日とする。

第 16 条　会計は当番幹事および事務局において集計し、監事および幹事会の承認を得た後に、総会で承認されなければならない。

第 17 条　会費等の改定は幹事会での審議を必要とする。

第七章　会則の改廃

第 18 条　本会則の改廃は幹事会で審議し、総会にはかるものとする。

付則　1）本会則は平成7年10月13日より施行する。

2）この会則は平成16年6月25日より変更施行する。

3）この会則は平成20年1月18日より変更施行する。

4）この会則は平成29年3月4日より変更施行する。

退院後の患者様の安心をサポートいたします

携帯することで色々な場面で役立つ
弊社オリジナル『ストーマ連携手帳』お渡ししております

ストーマ用品各種メーカー取扱い
補装具・日常生活用具給付委託事業者として契約済（群馬県全域・近県市町村）

ストーマケア用品の専門店

株式会社フィッティング Otuka（オーツカ）

伊勢崎本店　群馬県伊勢崎市国定町一丁目634-3
沼田店　群馬県沼田市東原新町1897-6

お問合せ先
0120-63-6058
mail info@f-otuka.com
http://s-fo.net/

定休日　日曜日・祝日　土曜日は営業
平日9：00～17：30（土曜日17：00まで）

ストーマケア用品専門店
だからできるサービスがあります

あらい
メディカル
ARAIMEDICAL

©2019 あらいメディカル

専門スタッフによる受付センター

選べるストーマケアセットをご用意

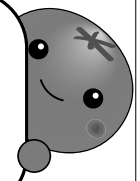
バラ販売 カットサービス 返品・交換

- 受付センターでは、日々のお悩み等のご相談可能
- 社会福祉制度の申請サポート

ショールーム併設！実際にケア用品をご覧いただけます

■所在地
本社：埼玉県坂戸市薬師町 34-3
宇都宮ｵﾌｨｽ：栃木県宇都宮市泉が丘 3-1-10 ｻｶﾖﾘﾋﾞﾙ1F
前橋ｵﾌｨｽ：群馬県前橋市西片貝町 5-19-6 EAST STREET C 号

(旧 Twitter)　LINE 公式アカウント　YouTube　ホームページ　オンラインショップ



あらいメディカル
ARAIMEDICAL
皆様の安心と快適な暮らしをサポートいたします

本社オフィス ☎049-298-7400
前橋オフィス ☎027-212-3640
平日 9：00～17：00（定休日：土曜・日曜・祝日）

☆　協賛一覧(50 音順)

アルケア　株式会社

株式会社　あらいメディカル

イーキンジャパン　株式会社

株式会社　栗原医療器械店

株式会社　フィッティング Otuka

株式会社　ホリスター　ダンサック事業部

株式会社　ホリスター　ホリスター事業部

公益社団法人　日本オストミー協会　群馬県支部　群馬あかぎ互療会

コロプラスト　株式会社

コンバテック　ジャパン　株式会社

本研究会の開催にあたり、上記団体や企業様から多大なるご支援をいただきました。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第 35 回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会　　当番幹事　関原　正夫